

「自立した学習者」を育てる教育活動の実現に向けて ～子供自らが学び方を学ぶ授業づくり～

「自立した学習者」を育てるために、「教師が教え込む授業」から「子供が学びとる授業」へと転換を図ることが必要です。授業の中に【計画】【選択】【調整】【協働】の場面を仕組むことで、子供は学び方を学び、「自立した学習者」に育っていくと考えます。



子供が【計画】する姿

★問いをもつ・何を学ぶかをつかむ

- ・学ぶことであらう
- ・本時のめあてをもつ
(何がわかればよいか・何ができるようになればよいか)
- ・単元や本時の内容の見通しをもつ

教師の働きかけ

★学習の動機付けや方向付けをする

- 問いを生む活動等を用意する
- 単元・題材のまとめを見通した学習目標を提示する

子供が、互いの学びの成果や課題を確認したり、共有したりすることができるアドバイスシートを用意します。



子供が【調整】する姿

★どこまでできたかを振り返る

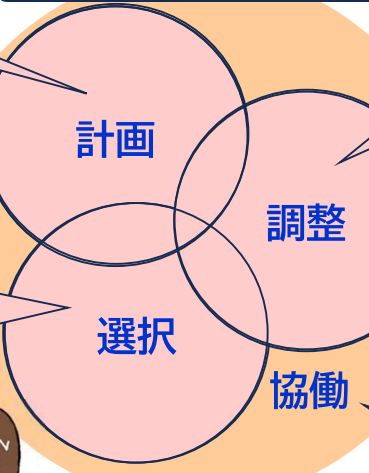
- ・自分の学びの成果や学びの進み具合を確認する
- ・自分の成果物や学びに対する振り返りをしたり、他者から評価を受けたりする
- ・自分の学びの成果や課題を把握して、次への学びに生かす

教師の働きかけ

★個々の学びの成果を把握しつつ、学びの価値付けをする

- 子供が成果や課題を認められる問い直しや価値付けを行う
- 子供が自分や他者の学びを容易に参照できる環境を整える

子供が学び方を学ぶ場面



磁力や極についての学習に対する興味・関心を高める活動を用意します。

子供が【選択】する姿

★どのように学ぶかを決める

- ・学習に用いるツール（学び方）を選ぶ
- ・自分の技量や理解度等に合った課題を選ぶ
- ・誰と学ぶかを選ぶ（一人で学ぶことを含めて）

教師の働きかけ

★個別最適で多様な学び方ができるよう工夫する

- 子供の技量や理解度等を見据え、活動の選択肢を設ける
- 子供の思考や意向を想定し、自分に合った教材や学習方法等を選択できるように環境を整える



活動を通して得た振り返りを次の学びへ生かせるよう、問い直しや価値付けを丁寧に行い、学び続ける子供を支えていきます。



子供が【協働】する姿

★他者と学び、学びを深める

- ・子供同士や地域の方々など、多様な他者と協働して学びを深める
- ・対話や端末活用等を通して、意見や考え等を交流する
- ・他者もつ、自分とは異なる考え方や感性に触れ、自らの考えを更新する

教師の働きかけ

★他者といつでもどこでもつながる場づくりに努める

- ICT環境下でも子供同士の考え等を共有できるようにする
- 子供の個々の学習の進捗を把握し、支援が必要な子供を支援する
- 子供が他者と協働して成し遂げた経験を味わう機会を設ける

子供が聞きたいときに聞きたい人のところへいける学習の進め方にもチャレンジします。



「こうしたい」「これをしたい」「あぁなりたい」など、子供の思考等に沿って、教材や学習内容等をいくつか用意します。